

全国スポーツ流鏝馬第8回八戸大会

開催案内

- ◆ **趣 旨** かつて良馬の産地として名高かった東北の南部地方。南部藩の歴史を語る上で馬、そして八戸という土地は欠かせない存在となっています。岩手北部から青森南部にかけて「戸」のつく地名、一戸から九戸にかけてはかつて糠部と呼ばれ、平泉の藤原氏が「糠部の駿馬」を貴重な財源としていたと言われており、源平争覇依頼、戦国の世まで様々な戦いで南部産の馬が活躍し、重宝されていました。現在も八戸には奉納行事としての流鏝馬や騎馬打毬だけでなく、八幡馬やえんぶり、八戸三社大祭など馬に関わる文化や行事が数多く残っています。これらがすべて南部藩に由来するものであり、また会場となる櫛引八幡宮と南部藩との深いつながりがあることから、スポーツ流鏝馬という今大会を通じて800年に及ぶ南部藩の歴史への興味喚起、さらには地元愛の育成と乗馬人口拡大を目指すものとします。

- ◆ **開催概要**
- | | |
|------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 会 期 | 令和5年8月11日(金・祝) |
| <input type="checkbox"/> 会 場 | 櫛引八幡宮(〒039-1105 青森県八戸市八幡八幡丁3) |
| <input type="checkbox"/> 主 催 | 全国スポーツ流鏝馬八戸大会実行委員会 |
| <input type="checkbox"/> 共 催 | 櫛引八幡宮 |
| <input type="checkbox"/> 後 援 | 八戸市、八戸市教育委員会、一般財団法人VISITはちのへ、
デーリー東北新聞社、東奥日報社、東奥日報文化財団 |
| <input type="checkbox"/> 協 力 | 一社)日本流鏝馬競技連盟、全国流鏝馬女子部、八戸弓馬会あおば道場、
九戸城流鏝馬実行委員会、十和田乗馬倶楽部、にんじんサークル
八戸市立明治中学校、八戸あおば高等学院、Future Generations |

- ◆ **実施種目** 流鏝馬競技～個人戦(上級の部・一般の部)・団体戦ダブルス・勝抜戦
※クラス振分けは実行委員会側で行います

- ◆ **参加条件**
- ※一社)日本流鏝馬競技連盟の団体・個人であること
 - ※一社)日本流鏝馬競技連盟公認の安全講習会(流鏝馬クリニック)受講済(有効期限内)
 - ※一社)日本流鏝馬競技連盟公認の流鏝馬ライセンス3級以上取得者
 - 上級の部:乗馬インストラクターもしくは各クラブ推薦者
 - 一般の部:上級の部以外の方
 - 団体戦ダブルス:各クラブ推薦者(団体検定取得者)
 - 勝抜戦:本大会出場者

- ◆ **参加申込み**
- 同封の「参加申込書」を郵送・FAX・メールでお送りください。
 - ※お申込先は、要項の一番最後をご覧ください。
 - お申し込みの**締め切りは7月28日(金)必着**とさせていただきます。

◆ 競技規定

	一般の部	上級の部	団体戦ダブルス	勝抜戦
参加資格	上級の部以外の方	乗馬インストラクターもしくは各クラブ推薦者	一団体は、参加資格者2名(2頭)で構成	本大会出場選手
エントリー料	10,000円	10,000円	4,000円(1団体)	3,000円
出走	3走	3走	2走	全的で勝ち残り
規定タイム(上限)	15秒	12秒	14秒	14秒
規定タイム(下限)	9秒未満は失権	なし	9秒未満は失権	なし
弓	上限8kg	上限10kg		
矢	2枚羽使用可	3枚羽のみ使用可		
	長さは鏑を除き90cm以上で、角がなく直径3cm以上の木製鏑矢とする			
口取り	可	不可		
的指定点数	1的目(中)10点・2的目(中)20点・3的目(中)10点			主催者より指定された的
	全種目において3走(団体戦は2走)とも上記の的を狙う			
順位	的中数により順位を決定。的中数が同数の場合はタイムの速いほうを上位とする。			最大4走まで(同点時はタイムの早い方)
表彰	・1～3位に賞状と賞金	・1～3位に賞状と賞金	・1位に賞状と賞金	・1位に賞金

※その他競技ルールは、(一社)日本流鏑馬競技連盟競技規定に準ずる

◆ 日程

出走表等詳細スケジュールはエントリー締切り後に発表いたします。

8月10日(木)

会場での練習会を行います。申込用紙にご記入ください

※基本的には時間の指定はできません

8月11日(金・祝)

時間	流鏑馬競技	併催行事	各種出店
7:15～	試走開始		搬入・準備
9:30～	開会式(安全祈願)		
10:00～ 12:00	本競技 (一般の部、勝抜戦)	10:00～12:00 弓体験	各種出店 ・飲食店 ・学生ブース(明治中、FG、あおば)
12:00～ 13:20	昼休憩	13:00～14:30 乗馬体験	
13:20～ 14:20	本競技 (上級の部、団体戦)		
14:20～ 14:40	チャレンジマッチ (U-18流鏑馬)		
15:00	表彰式		終了

◆ 食 選手には、飲食出店テント(3店舗出店予定)で使える食券が支給されます。

◆ 駐 車 場 選手は明治中学校駐車場をご利用ください

◆ **諸費用** あらかじめ（8月11日までに）お支払ください

	エントリー料	借馬料	輸送料
自馬・リース参加	個人戦 10,000 円	不 要	十和田乗馬倶楽部 500 円
借馬参加	団体ダブルス 4,000 円 勝抜戦 3,000 円	十和田乗馬倶楽部 会 員 8,000 円 ビジター 12,000 円	

【振込先】 青い森信用金庫 本店営業部

[普通] 1 0 3 7 6 9 3

全国スポーツ流鏝馬八戸大会実行委員会 委員長 石橋良子

- ◆ **併催イベント予定**
- ・弓矢体験、乗馬体験会（にんじんサークル）
 - ・レザークラフト体験
 - ・櫛引八幡宮施設
 - ・習学ゼミ「Future Generations」・明治中学校・八戸あおば高等学院ブース
 - ・種差少年自然の家 遊具遊び体験（竹馬・コマ他）

◆ **お問い合わせ・お申し込み**

締め切りは **7月28日(金)必着** です！

その他、ご不明な点やご質問・ご相談等ございましたら、
下記までお気軽にお問い合わせください。

全国スポーツ流鏝馬八戸大会実行委員会 事務局

〒034-0001 青森県十和田市大字三本木字佐井幅115-5（十和田乗馬倶楽部内）

[TEL] (0176)26-2945 ※営業時間 10:00～17:00

[FAX] (0176)26-2946 ※火曜定休

[メール] info@towada-joba.com

全国スポーツ流鏝馬 第8回八戸大会(個人戦・勝抜戦・前日練習)出場申込書

出場者	住所:〒
	フリガナ 氏名 (生年月日 . .) 歳(男・女) 所属 電話番号 (携帯)
出場資格	・流鏝馬ライセンス取得 ()級 ・流鏝馬クリニック受講 (有効期限 年 月 日まで)
競技馬	馬名: (自馬・リース・借馬予約済) 借馬先()
馬和装持ち込み	<input type="checkbox"/> 三懸 <input type="checkbox"/> 布手綱 <input type="checkbox"/> ブランケット <input type="checkbox"/> ブランケットカバー <input type="checkbox"/> 鍔矯正紐 <input type="checkbox"/> 持ち込まない <input type="checkbox"/> その他()
勝抜戦 (3,000円)	参加 ・ 不参加
8/10 前日練習	参加 ・ 不参加 (※料金 会員:4,000円 ビジター:7,000円) 午前10:30~12:00 午後13:00~14:30 予定
傷害保険	保険加入は出場条件となっておりますので各自でご加入ください
誓約書	
私は、全国スポーツ流鏝馬 第8回八戸大会の出場にあたり、フェアの精神で競技ルールを尊重するとともに、万が一事故が発生した場合は自己責任とし、主催者に損害賠償を求めないことを誓います。	
令和5年 月 日	
選手署名 _____ 印	
保護者名 _____ 印	
(選手が未成年の場合は保護者の承諾が必要です)	

申込み締切り 令和5年7月28日(金)必着(郵送・FAX・メールまたは持参にてお願いします)

選手紹介アナウンスの参考にいたします。(普段の練習や大会への抱負、馬への思い、その他ご自由に何でもお書きください)

【コメント】

全国スポーツ流鏝馬 第8回八戸大会(団体ダブルス)出場申込書

出場団体	住所:〒 フリガナ: 団体名: _____ 代表者: _____
1人目	フリガナ 氏名 _____ (生年月日 ____・____) ____歳(男・女) 所属 _____ 電話番号 _____ (携帯 _____) FAX _____ 団体検定有効期限 (____年 ____月 ____日まで)
2人目	フリガナ 氏名 _____ (生年月日 ____・____) ____歳(男・女) 所属 _____ 電話番号 _____ (携帯 _____) FAX _____ 団体検定有効期限 (____年 ____月 ____日まで)
傷害保険	保険加入は出場条件となっておりますので各自でご加入ください
事故の責任	競技中での事故は自己責任となります。必ず下記「誓約書」にご署名とご捺印をお願いいたします。
<p>誓約書</p> <p>私は、全国スポーツ流鏝馬 第8回八戸大会の出場にあたり、フェアの精神で競技ルールを尊重するとともに、万が一事故が発生した場合は自己責任とし、主催者に損害賠償を求めないことを誓います。</p> <p style="text-align: right;">令和5年 ____月 ____日</p> <p>選手署名 _____ 印 _____ 印 _____</p> <p>保護者名 _____ 印 _____ 印 _____</p> <p style="text-align: right;">(選手が未成年の場合は保護者の承諾が必要です)</p>	

申込み締切り 令和5年7月28日(金)必着(郵送・FAX・メールまたは持参にてお願いします)

<p>選手紹介アナウンスの参考にいたします。(普段の練習や大会への抱負、馬への思い、その他ご自由に何でもお書きください)</p> <p>【コメント】</p>

スポーツ流鎧馬八戸大会に参加される皆さまへ 櫛引八幡宮をより楽しむためのオススメ3プラン

【プラン1】国宝の実物を見る

天然記念物、重要文化財、県重宝…等々、“歴史的に大事なモノ”の呼び名が何種類かあります。中でも特別に大事なモノが“国宝”と呼ばれます。青森県には国宝が3つあって、そのうち2つが、なんと櫛引八幡宮にあるんです。赤糸威鎧「菊一文字」と白糸威褰取鎧という2領のヨロイがそれです。鎌倉時代や南北朝時代の技術の粋を集めた、精緻にして秀麗な武具の存在感は、ぜひ生で見たいおべきものです。

他にも、国の重要文化財など、興味深い品々が多数展示されています。国宝館の入館料400円は超安です。



国宝赤糸威鎧

【プラン2】お守りを見せびらかす

社務所では祈祷の受付やお守りの販売などを行っています。そこに流鎧馬の絵柄をあしらったお守りが売られています。値段は800円とお手頃ですし、爽やかなスカイブルーの袋地が馬のスピード感を演出している感じもします。流鎧馬の愛好者なら、是が非でも欲しくなること請け合いです。さり気なくバッグにさげて、乗馬仲間の前をこれ見よがしに通り過ぎましょう。

流鎧馬が印刷された絵馬もあります。もともと絵馬は、願い事を書いて現地にぶら下げてくるものなので、帰ってから誰かに見せるわけにはいきませんがね。



流鎧馬の御守

【プラン3】御朱印をもらおう

プラン2で紹介した流鎧馬のお守りは、たぶん大量生産されています。一方、御朱印は印刷やスタンプではなく直筆であること。書いてもらった年月日が添えられること。それがお守りになること。しかも、守ってくれるのが武勇の神様＝八幡さまであること。以上のような理由から、オンラインの記念になります。流鎧馬の騎士でありながら、御朱印をもらわずに八幡宮を去るなんて、もったいないように思えるのは私だけでしょうか。

御朱印帳を持っていなくてもだいじょうぶ。赤糸オドシと白糸オドシ、2つの国宝ヨロイが描かれた御朱印帳が社務所で売られています。御朱印帳は1,500円、御朱印の手数料(?)は200～300円だったと思います。



御朱印

【番外編】ウマ殿さまに会う

帰りがけに八幡宮からほど近い八戸市博物館を訪ねるのも一興です。建物の前で“馬殿様”こと南部師行公が出迎えてくれます。そう、ここは師行が築いた根城(ねじょう)の跡地。寛永4年の国替えまで約300年間、八戸南部の中心地だった場所なんです。

師行公にはタダで会えますが、入館料250円を払えば合掌土偶にも会うことができます。これこそが青森県3つめの国宝です。乗馬クラブの中野渡会長は「この土偶は“体育座り”をしているのではなく馬に乗っているものだ。その証拠に、両手で手綱を取りレッグチャップスをしているのではないか」と主張します。会長の言っていることが正しいかどうか、ぜひその目で確かめてみてください。



南部師行公の騎馬像

スポーツ流鎧馬八戸大会に参加される皆さまへ これだけは知っとこう！という雑学のおはなし

南部氏とは

石橋山の戦いで戦功を立てた加賀美遠光(かがみとおみつ)は1180年、源頼朝から甲斐国の南部牧を与えられます。これを機に遠光は「南部」姓を名乗ります。

遠光の三男(※)が南部光行(なんぶみつゆき)です。光行は奥州合戦の戦功により陸奥国(むつのくに)糠部(ぬかのぶ)五郡を与えられました。ここから南部藩の歴史が始まります。

もともと名馬「南部馬」の産地であった南部藩では、当然のように馬術が奨励されました。(三戸南部にもまして)八戸南部における馬術熱は盛んで、藩士は御家流である加賀美流馬術の修練に励みました。長者山新羅神社で今なお伝承される打毬(だきゅう)の正式名称も「加賀美流騎馬打毬」と言います。

八戸南部4代当主の南部師行(なんぶもろゆき)は、とりわけ馬術の名手として知られています。自らが師範となって加賀美流馬術を藩士に指導し、流鎧馬や打毬の発展に注力し、“馬殿様”と呼び親しまれました。櫛引八幡宮における流鎧馬の奉納神事を再興したのも、師行と言われています。



加賀美流騎馬打毬

櫛引八幡宮とは

初代・南部光行の草創です。源頼朝から糠部郡(ぬかのぶのこおり)を拝領した光行は、1191年に入部。神託を得て霊験あらたかな櫛引村に宮社を造営し、武運長久を祈りました。

大同年間に櫛引八幡宮と称するようになり(「くしびき」ではなく「くしひき」が正解)、南部の総鎮守となりました。南部藩の本家は三戸に、その後盛岡に移転しますが、今なお櫛引八幡宮は「南部総鎮守 一之宮」です。

拝殿は1984年の竣工。本殿(1648年造)はその奥にあり、各部を彫刻と極彩色で飾られています。東日本では類例の少ない春日造社殿の末社春日社本殿をはじめ、松福稲荷神社、悶破稲荷神社、末社神明宮といった建物が一群として連なるレイアウトは圧倒的です。

御祭神は誉田別尊(ほんだわけのみこと)と八幡神(やはたのかみ)。古来より信仰されてきた神様で、清和源氏や桓武平氏など全国の武家から武運の神として崇敬を集めました(※)。鎌倉武士の守護神・鶴岡八幡宮をはじめ、流鎧馬神事が奉納される神社の多くが八幡様です。



櫛引八幡宮拝殿

※ちなみに南部光行の兄(加賀美遠光の次男)小笠原長清も馬術の名手としてならしました。弓馬術礼法で有名な小笠原流の開祖です。

「弓矢八幡にかけて」とは、武士が自分の言葉に偽りが無いことを誓うときに使った常套句。神にかけて、断じて、決して、心から…といった意味があります。

つまり何が言いたいかと言うと…

馬術が隆盛を極めた南部八戸の地で、それも櫛引八幡宮で流鎧馬ができる“誉れ”と“幸せ”を感じていただければと思うのです。同時に、八幡宮に対する敬意も忘れないようにしましょう。そこで皆さまに提言です。

まずは八幡さまにご挨拶を

現地に着いたら、まず初めに八幡様に挨拶をしましょう。作法としては…

- ①参道にある手水舎にて手を清める
- ②清めた手のひらで水を受け、口をすすぐ
- ③拝殿に向かう(参道の中央は神様がお通りになるのでそれを避けて通る)
- ④神前に立ち、お賽銭をあげ、鈴を鳴らす
- ⑤2礼・2拍手・1礼

その際に心の中で「本日はお世話になります」とご挨拶しましょう。



(注)手水舎に備え付けのひしゃくは口をつけるものではありません。